

(53)電通の鬼 10 訓と、電通 PR の戦略 10 訓

24 歳の若い女性が過労自殺した事件で、長時間労働を社員に強いることを暗に示す、経営方針とされる電通の鬼 10 訓が話題になっている。

10 訓の中には、社員の積極性を促す訓示もあるが、中には、「取り組んだら放すな、殺されても放すな、目的完遂までは……」とか、「周囲を引きずり回せ、引きずると引きずられるのでは、永い間に天地のひらきができる」などの訓示があり、社員の働き方に、疑問を投げかけている。実際、社内では、週 40 時間以上の残業は当たり前で、100 時間を超すこともあったようで、現在、厚生労働省が強制捜査に入っており、日本の大企業の長労働時間の実態と経営者の責任が、明らかにされるであろう。

電通の労働環境に関する経営方針は、本業の広報戦略にも通じており、1970 年代には、電通 PR の戦略 10 訓が以下のように示されていた。

1. もっと使用させろ
2. 捨てさせろ
3. 無駄使いさせろ
4. 季節を忘れさせる
5. 贈り物をさせろ
6. 組み合わせで買わせろ
7. きっかけを投じろ
8. 流行遅れにさせろ
9. 気安く買わせろ
10. 混乱をつくり出せ

消費者が購入しても、さらなる購入を強いる戦略は、過労死問題と相通ずるところが多いようだ。しかし、戦略 10 訓は、消費者が消費情報を賢く取り入れ、合理的な選択を行い、リサイクルを含む環境意識を高めることによって、十分とは言えないが対抗力(カウンターベーリング・パワー)を発揮することによって、下火になったことが、鬼 10 訓との違いかもしれない。

以上